

## 社会に開かれた教育課程の実現に向けて

これからの学校は、地域でどのような子供たちを育てるのか、何を実現していくのかという目標やビジョンを地域と共有し、同じ思いで教育活動を進めることが重要です。



かまどを使った炊飯体験  
(上三川町立明治小学校)



南摩ふれあい農園(収穫祭)  
(鹿沼市立南摩中学校)



百目鬼川清掃ボランティア  
(益子町立益子中学校)



蚕のお世話  
(小山市立絹義務教育学校)



「社会を明るくする運動」街頭啓発活動  
(高根沢町立阿久津中学校)



獅子舞クラブの指導  
(那須塩原市立大原間小学校)



みそ玉作り  
(佐野市立吾妻小学校)



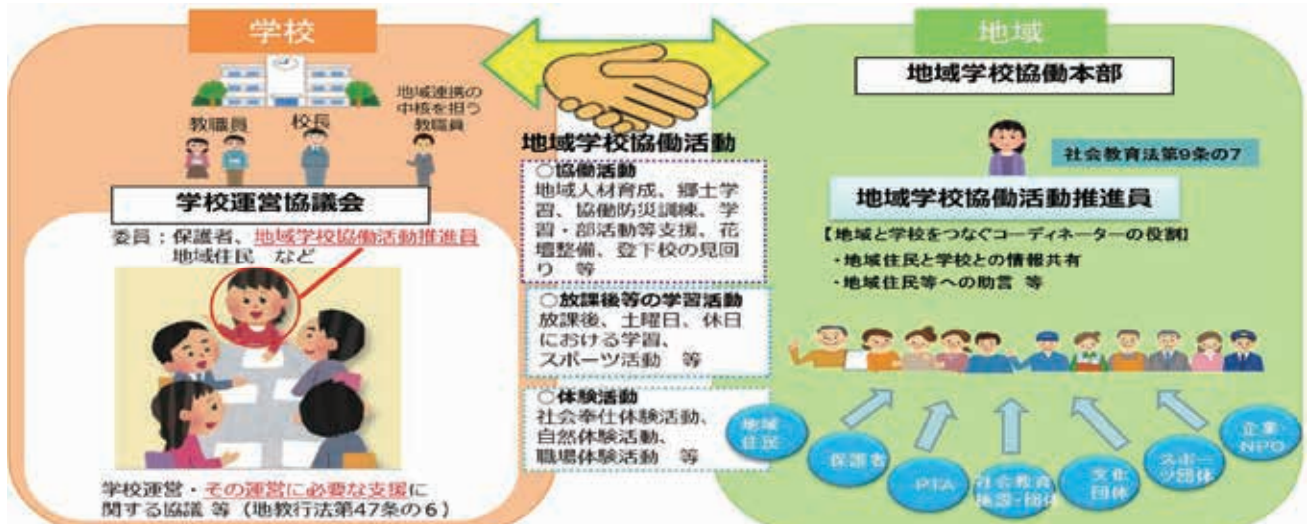
今泉八坂神社例大祭でのお神輿担ぎ  
(県立宇都宮白楊高等学校)



大山ふれ愛・花いっぱい運動  
(県立那須特別支援学校)

## 学校と地域の連携・協働活動を推進していくために

組織的・継続的な仕組みづくりが重要であり、学校運営協議会と地域学校協働本部の両方が機能することにより、両輪として相乗効果を発揮していくことが期待されます。



# 学校と地域の連携・協働活動により期待される効果

## 子どもたちにとって

- 生きる力が育成される
- 地域への愛着が芽生える
- 学力向上の基盤をつくる
- 社会性が育まれる

## 地域や保護者にとって

- 生涯学習活動や地域活動が充実する
- 地域の教育力が向上する

## 教職員、学校にとって

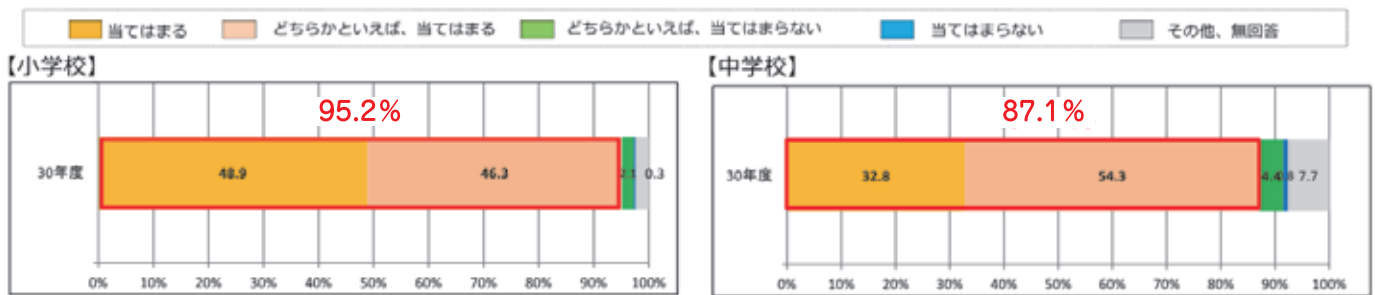
- 地域への理解が深まる
- 地域との信頼関係が構築される
- 教育課題の解決につながる
- 教育活動の内容が充実する

いろいろな効果が期待できるまる！

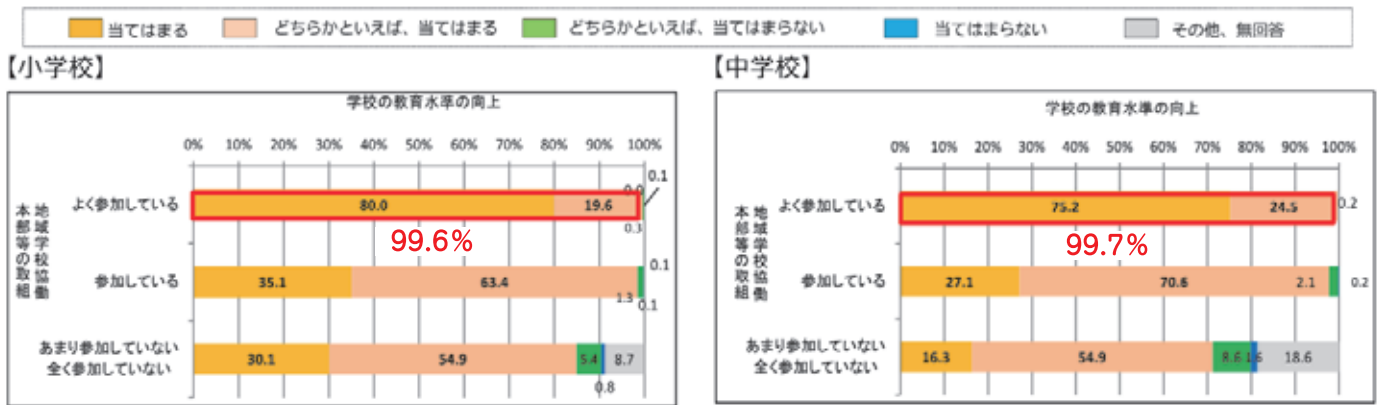


◎学校と地域の相互理解を深め、連携・協働活動の充実を図っていくことで、子どもと向き合う時間が増えることにもつながります。

★保護者や地域住民との協働による取組は、学校の教育水準の向上に効果があると思う学校は、約9割にのびります。



★地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして保護者や地域の人との協働による活動を行ったほど、学校の教育水準の向上に効果があったと考える割合が高くなっています。



「平成30年度全国学力・学習状況調査 学校質問紙調査（文部科学省）」より

## 活動の充実を図るためのポイント① 地域連携の4つの視点

各学校の教育目標や活動のねらい、子どもの発達の段階等を踏まえ、以下の4つの視点から活動の充実を図りましょう。

### 【地域の人材を生かす】

- 学校支援ボランティアによる活動
- 企業や高等教育機関等との連携

### 【地域の資源を生かす】

- 地域資源を活用した校外学習
- 社会教育施設の活用

### 【学校の力を生かす】

- 学校の教育力を生かした活動
- 学校施設を生かした活動と交流

## 学校

### 【地域へ参画する】

- 地域でのボランティア活動
- 近隣・異校種、地域の団体との連携

「地域連携教員のための手引き書（H29.3県教育委員会）」より

## 活動の充実を図るためのポイント② コーディネーターの設置

学校と地域のよりよい協働活動を持続的に進めていくには、両者をつなぐキーパーソンであるコーディネーターを設置することが重要です。

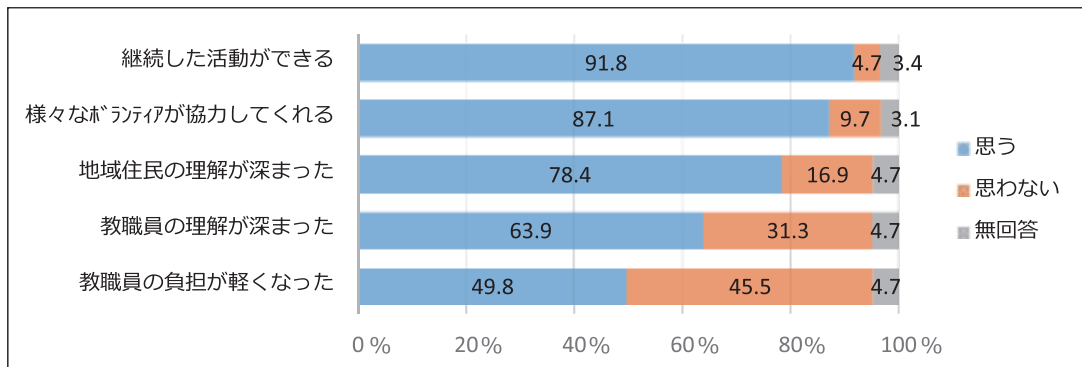
役割：学校のニーズや地域情報の収集及び発信、活動の調整や支援、活動の提案 等

### コーディネーターとの連携による効果

- 持続的・効率的な活動の実施
- 地域や学校の実情に応じた効果的な活動の展開
- ボランティア自身の意欲の向上

地域と学校の相互理解が深まり、  
双方向の「連携・協働」へ発展！

【コーディネーター設置に関する効果】（地域連携教員が回答 n=319）

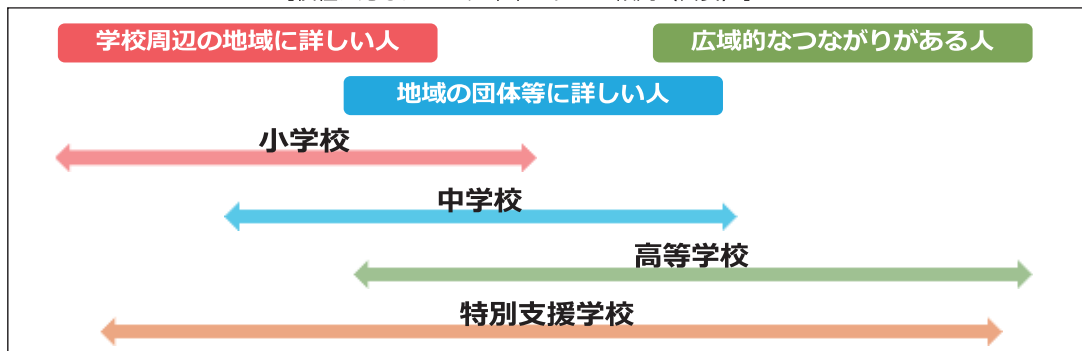


「平成29年『学校支援のためのコーディネーターに関する調査研究』報告書（栃木県総合教育センター）」より

### コーディネーターの探し方

コーディネーターは、それぞれ「得意なフィールド」を持っています。校種による傾向を参考に、地域の関係者や行政等に相談しながら学校に合ったコーディネーターを探しましょう。

【校種に応じたコーディネーターの傾向（目安）】



「地域連携教員のための手引き書（H29.3県教委）」より

学校周辺の地域に詳しい人

保護者、元保護者、自治会関係者、近隣の住民 等

地域の団体等に詳しい人

商店会の関係者、公民館職員、地域団体の役員 等

広域的なつながりがある人

行政職員、商工会議所関係者、高等教育機関関係者、企業関係者 等

平成29年3月の社会教育法の改正により、教育委員会は「地域学校協働活動推進員」※を委嘱することができる規定が設けられました。

※「地域学校協働活動推進員」…地域学校協働活動を推進するため、学校と地域をつなぐコーディネーターの役割を担う。



## 地域連携活動事例

～R2.1.28地域連携教員研修から～

各校の取組について、ABCの3つのポイントにまとめて紹介します。

- A：主な地域連携活動とその特長
- B：効果的な活動のコツ
- C：地域連携教員として心がけていること



### 塩谷町立大宮小学校



- A：◇「大宮コミュニティ地域連携研修会」の開催・・・学校職員、大宮コミュニティ推進協議会各部代表者及び町生涯学習課が集い、課題や協力できることについて話し合っている。◇「大宮地区コミュニティ祭」への参加・・・合唱の披露や子どもフリーマーケットへ出店している。
- B：◇教育課程を見直し、教科や行事等、教育課程に位置付けている。◇町生涯学習課や大宮コミュニティセンター等の協力を得ながら実践している。キーパーソンになる方との連携を大切にしている。
- C：◇子どもたちにとって学びの機会になるかどうかを考えており、さらに地域のためにもなることならと思っている。互いにとってWIN-WINの関係になればと思っている。

(地域連携教員：手塚 孝一教諭)

- A：◇「GUNCHIKU Center」・・・2名のコーディネーターと多くのボランティアにより、様々な支援・協力を得られている。(例：図書、掲示、ミシン、調理、賞状、かなん研ぎ、カーテン修理)

- B：◇月に1回、コーディネーターとの打合わせ会を行い、学校の要望やボランティアさんからの声を出し合い、計画を立てている。その際、堅苦しい会議にならないように、お茶を飲みながら行うなどの工夫もしている。◇コーディネーターがボランティアの保険加入申込みやボランティアの事前研修を行ってくれている。

- C：◇人とのつながりが重要なので、ご縁を大切にしている。

(地域連携教員：増田 孝裕教諭)

### 佐野市立田沼東中学校



- A：◇行政、企業、大学・短期大学、金融機関、民間団体など、地域を巻き込んだ幅広い連携をしている。◇「烏山学」・・・那須烏山市との連携事業である地域課題解決型キャリア教育。その活動の一つとして「山あげ体験学習」がある。◇「まちづくり研究会」の地域連携活動

- B：◇那須烏山市との密接な関係・・・市のまちづくり課職員と常日頃から情報交換を行い、意思疎通を図っている。行政の中に学校に対する想いを持つ方々がいる。◇地域連携教員が長く赴任している。◇管理職のリーダーシップ。

- C：◇生徒にとっては当然だが、連携する双方にとってメリットのある連携である。◇相手の立場を考え、一方的な主張をしない。◇地域連携は目的ではなく、手段。その活動が目指すものと矛盾していないかどうかを考える。

(地域連携教員：藤井 啓太教諭)

### 県立烏山高等学校



- A：◇「学校応援ボランティア」・・・新着図書の受け入れ作業や季節の掲示物作成、教材作成補助等をしていただいている。休憩時間には、高等部生が喫茶サービスの練習も行っている。知人を誘って参加するなど広がりも見られる。◇「レインボー作品展」・・・障害者週間に合わせ、児童生徒の居住市町で作品展を開催している。

- B：◇特別な知識・技術がなくても行うことができる活動を複数用意したり、前回の成果を伝えるようにしたりしている。また、教員にも活動内容を伝えることで、次回の依頼内容を考えやすくなるようにしている。◇学校祭で使用した作品を展示することで、教員の負担感を軽減している。

- C：◇障害のある児童生徒や本校の教育について知ってもらう。関心を持ってもらえるよう情報発信をしている。◇負担感が大きくなるようにしている。

(地域連携教員：高橋 薫教諭)

### 県立国分寺特別支援学校

